

「水俣病」を通して学ぶことの意味を考える 2023. 11. 30
水俣・芦北公害研究サークル代表 梅田 卓治

I あいさつ

■ 2023年の水俣学習

①	1 / 8	久留米の先生方 (天本さん一行) 水俣学習	
②	1 / 14	菊池合志市人権啓発課一行 水俣学習 患者交流 (坂本しのぶさん)	
③	1 / 28・29	全国教研 水俣報告 (リモート)	
④	2 / 8	八代 宮地小 教育講演会 患者講話 (坂本しのぶさん) 補助	
⑤	2 / 22	東京学芸大学 原子ゼミ 水俣学習 23日 フィールドワーク	
⑥	4 / 24	栃木下野新聞社飯田さん取材	
⑦	5 / 3	菊陽北・南・中部小、大津北中水俣学習 患者交流 (坂本しのぶさん)	
⑧	5 / 17	八代8中 水俣フィールドワーク (田中さん)	
⑨	5 / 25	八代2中 水俣フィールドワーク 患者交流 (坂本しのぶさん)	
⑩	6 / 6	合志解放研 水俣学習	
⑪	6 / 28	大津北中 患者交流 (坂本しのぶさん)	
⑫	7 / 7	県人教小学校部会 水俣学習 (下田良夫さん) 28名	資料①②
⑬	7 / 10	宇城市ふれ愛学習会事前学習 (豊野コミュニティセンター) 10名	
⑭	7 / 12	菊池 西合志中 大型バス4台	
⑮	7 / 23	熊本市人権 (藤本さん一行) 水俣学習 (坂本しのぶさん) 15名	資料③④
⑯	7 / 26	菊池 南ヶ丘小フィールドワーク・患者交流 (坂本しのぶさん) 21名	
⑰	7 / 27	宇城市ふれ愛学習会水俣現地学習 小学32名中高9名大人8名	
⑱	7 / 28	菊池 室小校内研 35名	
⑲	7 / 29	大分別府支部 岡部さん一行フィールドワーク・患者交流 (坂本しのぶさん)	
⑳	30	大分別府支部 岡部さん一行患者交流 (下田良夫さん) 8名	資料⑤
21	8 / 4	菊池 菊陽西小水俣現地学習・患者交流 (坂本しのぶさん) 15名	
22	8 / 7	兵庫県神戸市教職員 (竹中さん一行) 21名とサークル会員6名の交流	
23	8 / 9	久留米の先生方 (北野中校区) 水俣学習15名 ←台風接近のため中止	
24	8 / 10	久留米の先生方 (諏訪中校区) 水俣学習21名	
25	8 / 17	菊陽南小校内研修 13名	
26	8 / 18	水俣芦北地区人権教育研究大会 (坂本しのぶさん) 50名	
27	8 / 20	東京荒馬座準座員水俣学習フィールドワーク	
28	8 / 21	芦北湯浦小学校校内研修FW (梅田)、東京学芸大学原子ゼミFW (田中さん)	
29	8 / 22	西合志南中フィールドワーク・東京学芸大学原子ゼミフィールドワーク	
30	8 / 22	東京学芸大学原子ゼミ水俣学習	
31	8 / 23	宇土走瀧小 水俣学習FW・患者交流 (永本賢二さん)	資料⑥⑦
32	8 / 24	水俣第二小学校校内研修FW・患者交流 (下田良夫さん)	
33	8 / 26	埼玉大学安藤ゼミ学生さん講話 20名	
34	9 / 27	旭志人権文化のまちづくり協議会水俣学習フィールドワーク	
35	10 / 3	宇城市人権教育主任会水俣学習	
36	10 / 17	菊陽北・南小患者交流 (坂本しのぶさん)	
37	10 / 24	福岡筑紫野市人権教育を創造する会水俣FW及び患者交流 (坂本しのぶさん)	
38	11 / 1	美里町立砥用中患者交流及び職員研修 (坂本しのぶさん)	
39	11 / 3	県教研 (熊本県教職員組合研究大会) 水俣報告	
40	11 / 30	熊本学園大学 水俣学講義	
41	12 / 8	八代第8中患者交流 (坂本しのぶさん)	
42	1 / 11	県人教中学校部会 水俣学習FW・患者交流 (坂本しのぶさん)	

II 水俣病学習について

■ 久留米の先生方の水俣学習資料 (2023 1/8) (★神戸の先生方・埼玉大学安藤ゼミ) レジメをもとに

1 わたし自身の中の「水俣病」 (自己紹介をかねて)

☆ふるさと「水俣」や「水俣病」に関するわすれられない出来事

①小学校入学前～小学校時代

陣内社宅 (おやつ・カルピス・ピアノ・ゴルフボール) →豚肉事件→「特殊」学級

②中学校～大学

中体連事件→郡部 (ぐんぶ) ひとまとめの高校時代→出身地事件

③初任3年間 菊池郡西合志南小学校

自分と重なっていない「同和」教育

2 水俣・芦北公害研究サークルについて

それまでの教育実践の反省から誕生したサークル

1975年「患者差別弁論事件」 (詳しくは通称

「青本」に掲載してある資料「水俣病という名前にたいして」参照)

責任の一端は水俣病を不十分な形で教えたわたしたちにある。物や金さえあれば豊かと思ってしまう現在の生活を考え直すきっかけになればという思いに賛同した仲間が結集して、1976年8月に発足する。

◎基本的視点：わたしたちは、金銭であがなうことのできない人間の生存と差別の問題を深く内包する水俣病の実情を教えることで、疎外された人間関係の復権・価値判断の変革を自ら志向できる子どもたちを育てるための授業実践に取り組むものである。（サークル編「青本」より）

◎基本的姿勢：「被害者（当事者）に学ぶ」「現地に学ぶ」

◎最近の主な活動：水俣病資料集「青本」「黄本」の作成、現地案内、校内研での講話や問題提起、患者交流の補助、各種学習会・研究大会での報告や講演など ※月1回の例会は、今年535回を数えた。

3 水俣病学習を進める上で、こだわっていること

- ① 現地に学ぶ（当事者に学ぶ） → フィールドワーク・患者交流 資料①～⑦、⑧
生の声を聞く努力+自分の目・耳・鼻・心・手で感じたものから授業を組み立てていく。
- ② 「水俣病を学ぶ」のではなく「水俣病を通して学ぶ」 → 資料⑨⑩、水俣病の原因
（学びの切り口をさぐる）
- ③ 学びをくらしに生かす（重ねる） → 資料⑪⑫、感想文と学び
実態から目指すものを明確にする。
- ④ 人の実践に学ぶ → 資料⑬～⑯、
（尋ねる・教わる・真似る・試す→自分のものにしていく）
- ⑤ 自分の実践を問う
（子ども・保護者・患者・地域・教職員・〇〇に...）

4 地元水俣・芦北での具体的実践について

- ① 患者家族の思いを伝えてくれた上村智子さんのご両親 乙女塚（祈りと交流・学びの場）
母 良子さん 「この子は、宝子です。」 父 好男さん 「ほんなこつば教えんばなあ。」
- ② 坂本フジエ・しのぶさん親子 湯堂（胎児性・小児性患者の多発地区）
母としての愛と悲しみ→「水俣病」は決して終わっているのではなく現在進行形（闘い続ける）
◆互いに理解し合い共生していくことの本当の意味
◆人が優しく生き、賢くならなければならないことの提起
- ③ 田中家（公式確認1号、2号患者＝田中静子・実子さん） 坪谷（公式確認の地＝震源地）
◆教師としての姿勢・子どもたちへの向き合い方を学ぶ

- ④ 情報をしっかり集めた上で判断することの大切さと本当の優しさ・強さについて教えてくれた川本輝夫さん 百間排水口（爆心地）
目の前で語る川本さんは、テレビの画面の中でみた人とは全く別人で、人のことを考え弱い立場の人のために行動する優しい人だった。
「納得できないことをそのままにしておくわけにはいかなかった。」「誇りを取り戻すため…」
- ⑤ 杉本家（栄子さん・雄さん・肇さん・実さん）と茂道の子もたち 茂道（患者最多発地区）
水俣病という病気は、命や健康を破壊しただけでなく、村社会の絆を破壊した。
●仁田峠事件と国際文化会館事件（袋小の子どもたち）

5 まとめ

★「水俣病」を（通して）学ぶことの意味は、何だろう？

◎水俣病学習は何のため、だれのためにするのか・・・

①患者のため？ ②みんな（社会）のため？ ③子どもたちのため？ ④自分のため？

◎自分自身が一人の人間として、どんなことにこだわり（何をどのように見、何を大切するかなど）、どう自分自身やふるさを見つめながら、どのように生きていくかが問われている。

☆「先生たちをお願いしたいことは、真実をありのままに教えてほしい。公害を教えるのではなく、公害を出さない教育をしてほしい。」「水俣から逃げる教育でなく、水俣を誇りうる教育をしてほしい。」という患者さんの言葉をどう受け止め、どう返していくか（いけるか）は、わたしたちのこれからの水俣病学習に関わっていく姿勢次第で、大きく違ってくると思っています。

「公害を出さない教育」とは、人権教育そのものだと考えます。さらに、「水俣を誇りうる教育」というのも、ふるさとや自分をしっかり見つめ、それらとしっかり向き合いながら生きていく生き方を学ぶ人権教育を根底に据えた教育のことをさしているのだと思います。

「水俣病」学習を通して、いろんなことを考え、学び（自分のものにし）、力をもらって、自分らしい行動や生き方を見つけていくことが「水俣病」を学ぶ意味につながると考えます。

□ 今日の水俣学習で、みなさん一人一人の心の中に、水俣病を通して学ぶことの意味が、少しでも見えたり感じたりすることができたなら幸いです。さらに、みなさんが、ふるさとや自分自身と今一度向き合ってみようかなと思うきっかけにもなったのであれば、より有難いです。

III 終わりに（質疑や感想交流）